

< 和装本(四つ目綴) >

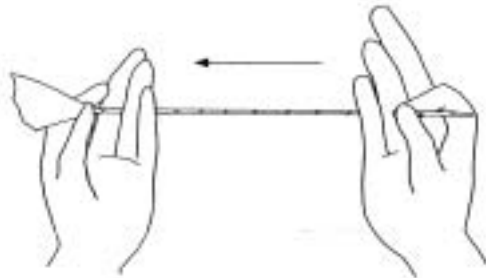
和装本の装訂にはさまざまなものがあるが、ここではその代表的な例として、線装本のうち「四つ目綴」の方法を紹介する。

紹介する「四つ目綴」など、和装本は簡単に製本できるものが多く、また、丈夫でしなやかな和紙を使い、接着剤をほとんど使っていないので、軽く、柔らかく仕上がる。したがって、壊れにくく、また壊れても簡単に修理できる。容易に解体して仕立て直すこともできる。そのため世界的にも最も優れた製本方法のひとつとも言われている。

【本紙を紙縫で中綴りする】

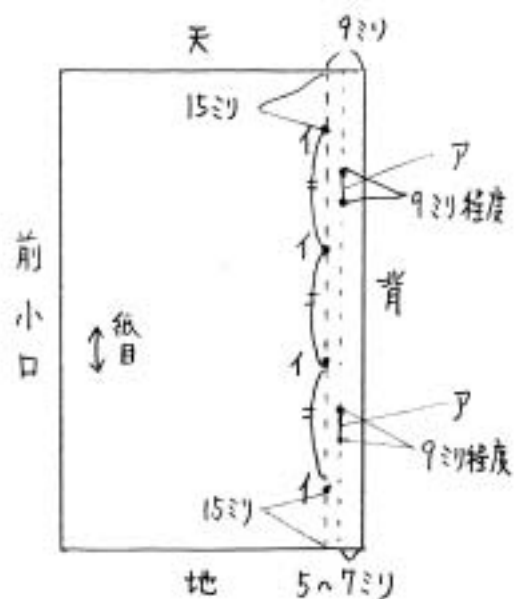
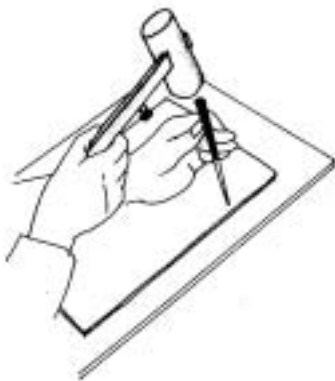
中綴じに使う紙縫を2本作る。

親指と人差指で縫りながら矢印の方向に通む

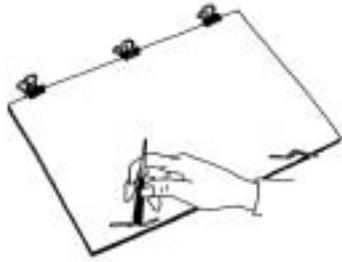


本紙の前後に見返しとなる紙を入れて、形を整える(ずれる心配があれば図のように前小口をクリップなどでとめる)。

下図のアの上下に(位置はイとイの間くらいになるとよい)目打ちで穴を開けて、の紙縫を、結び目が裏側にくるように通して、ひと結びする。

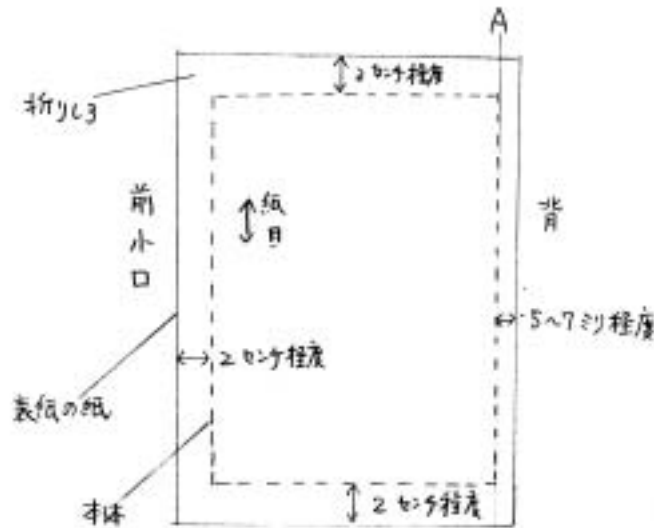


結び目を目打ちの頭などで押して平らにし、結び目から4～5ミリのところで切る。



【表紙をつける】

まず、前表紙背側の折り込みを作る。
 表紙の裏側を表にして置き、図のA線の位置に定規を当て、折りやすくするために目打ちの腹で筋をつけて内側に折る。
 後表紙も同様に。

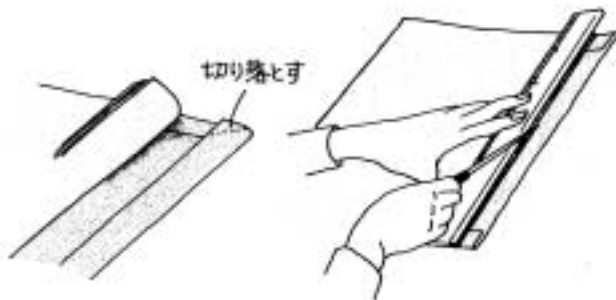


前表紙側の本体、見返しの中心に少量の糊を塗って、本体の背と表紙の背を合わせて貼る。(表紙の仮止め)

板に挟んで重しを載せて、糊を完全に乾かしてから次の作業をするとうい。

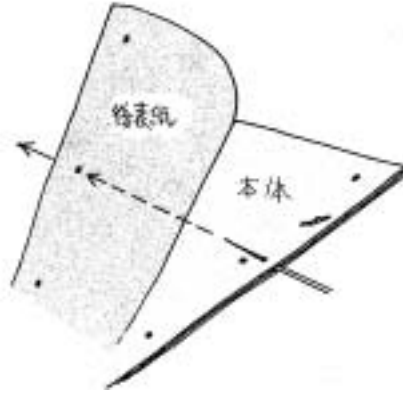
表紙の天地、前小口の三辺は、本体とぴったり合わせて目打ちで筋をつけ、内側に折り込み、四隅は折り込んだ紙がはみ出ないように、ハサミで切り落としておく。

同様に後表紙もつける。



【糸で綴じる】

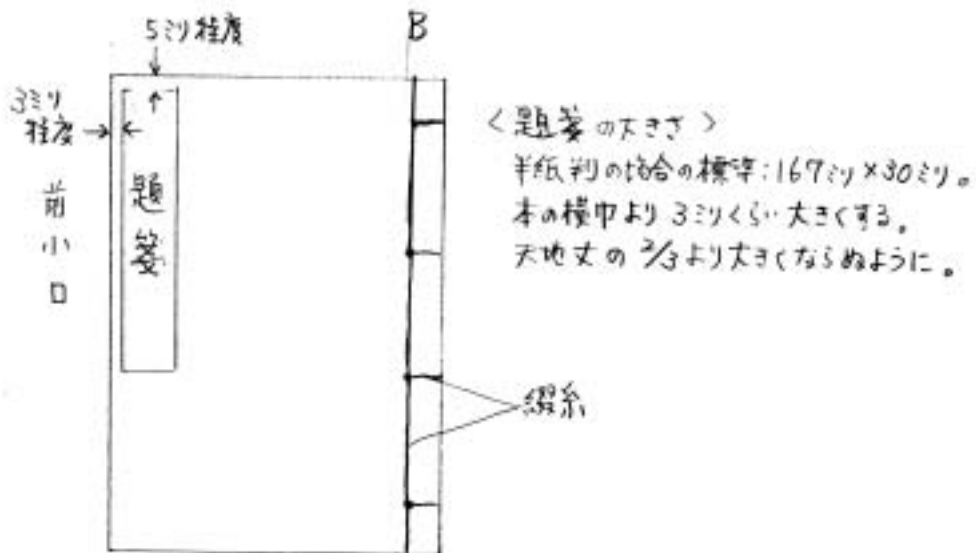
1ページの図のイに、表側から目打ちで穴を開ける。
糸は天地丈の3倍ないし3倍+対角線分くらい用意し、針に通す。
端は玉結びとし、図のように裏側から本紙を数枚すくって、2番目の穴、背側の脇から針を入れ、後表紙の穴に通す。玉結びの部分が出っ張らないように目打ちの頭などで押して平らにしておく。



糸をピンと張りながら次ページの図の順に綴じる。最後に結んでからもう一度表に出して糸を切る

【表紙を糊止めし、題箋を貼る】

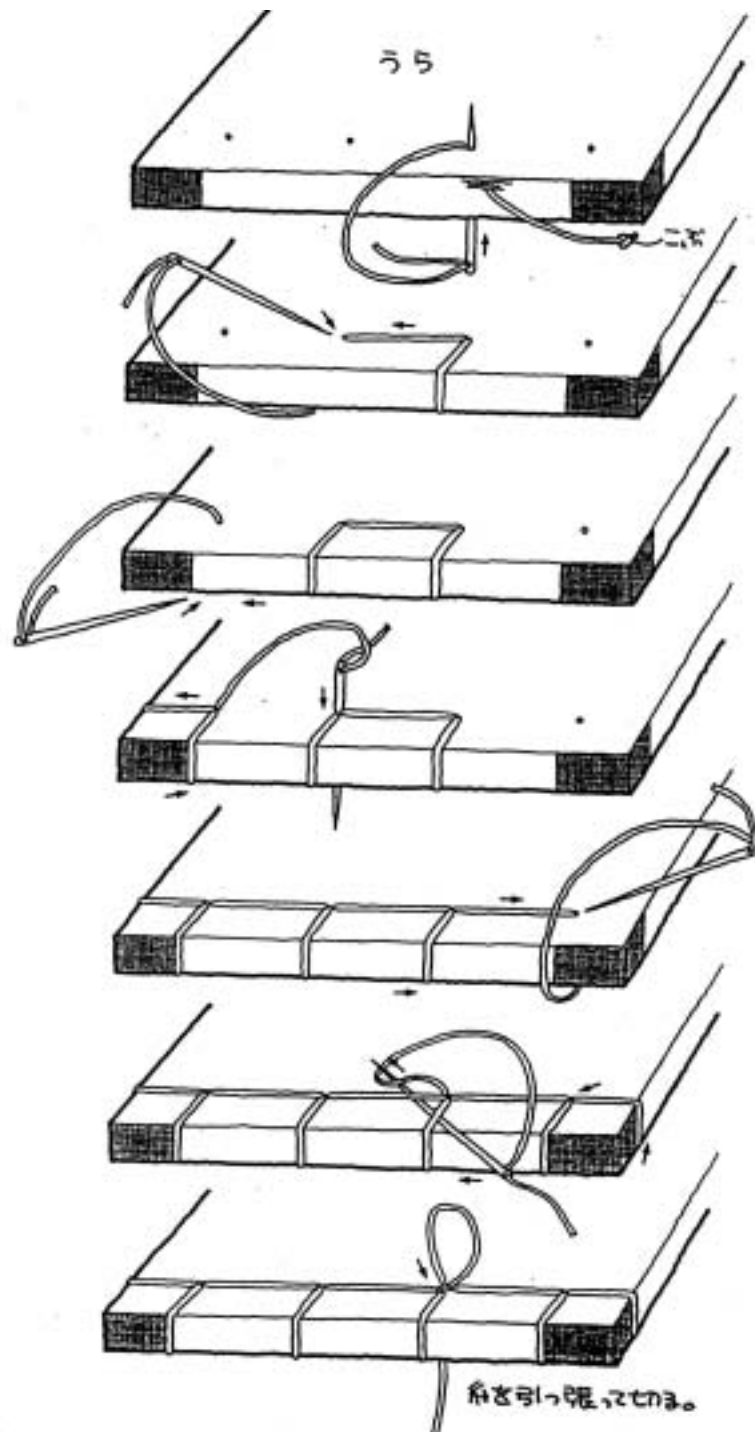
表紙と本体は、前小口側数ヶ所で糊止めする。
必要に応じて題箋を貼る。題箋全体に糊を塗らず、縁だけ糊を塗って貼る。
板に挟んで、重しを載せて糊を乾かす。



【折り癖をつける】

図のB線(表紙の綴じ糸の線から前小口側へ1ミリ程度のところ)に目打ちなどで筋をつけて、折り癖とする。

【四つ目綴じ】



参考

- 「和装製本で手作りの一冊を」(『明日の友』148号、婦人之友社、2004)
- 『防ぐ技術・治す技術 - 紙資料保存マニュアル - 』日本図書館協会、2005

製本講習会テキスト 7

2005.11

<和装本(四つ目綴)> (概略版)

和装本の装訂にはさまざまなものがあるが、ここではその代表的な例として、線装本のうち「四つ目綴」の方法を紹介する。

紹介する「四つ目綴」など、和装本は簡単に製本できるものも多く、丈夫でしなやかな和紙を使い、接着剤をほとんど使っていない。軽く、柔らかく仕上がるので、壊れにくく、また壊れても簡単に修理できる。容易に解体して仕立て直すこともできる。そのため世界的にも最も優れた製本方法のひとつとも言われている。

【概略】

本紙を紙縫(こより)で中綴じ(なかとじ)をする。

(角布(かどぎれ)をつける。)

前表紙の背側を折り込んでから、表紙を本紙に一ヶ所、糊付けする。

そのあと、天地、前小口の順で折り込み、折った部分がはみ出ないように四隅をカットする。

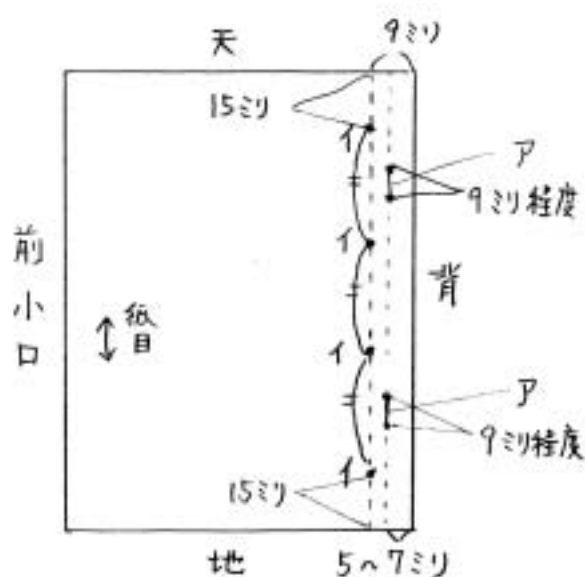
後表紙についても同様にする。

四つ目綴じをする。

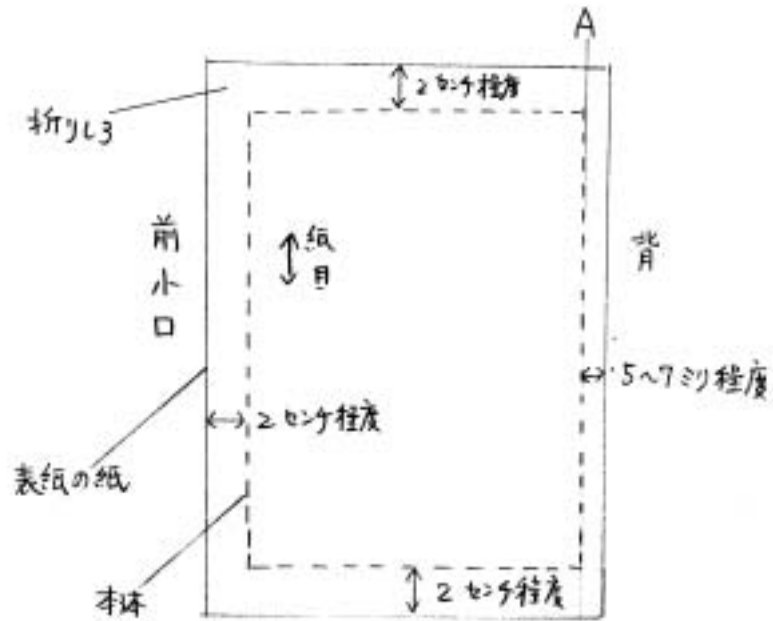
前小口で表紙と本紙を数ヶ所、糊付けする。(天地は糊付けしない)

(題箋(だいせん)を表紙に貼る。)

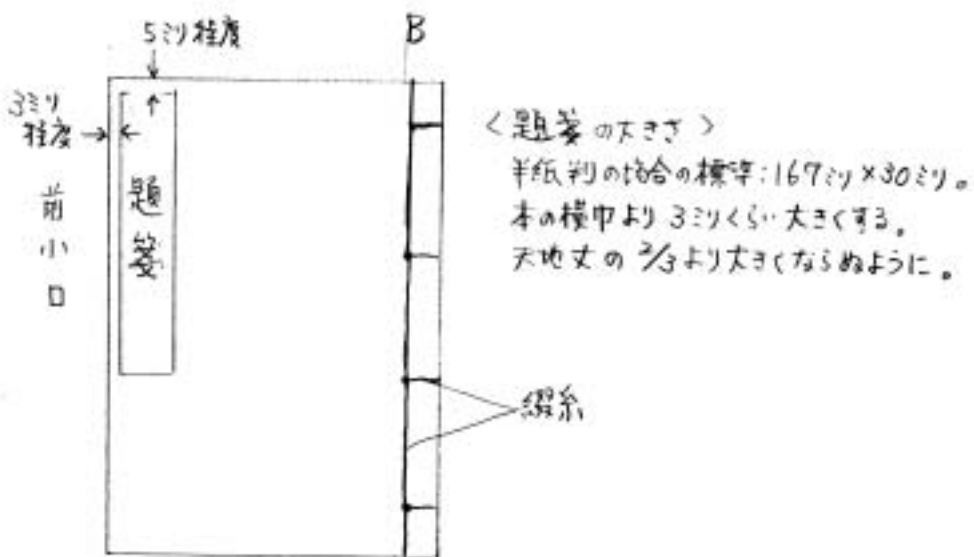
綴じ穴



表紙



題箋



参考

- 「和装製本で手作りの一冊を」(『明日の友』148号、婦人之友社、2004)
- 『防ぐ技術・治す技術 - 紙資料保存マニュアル - 』日本図書館協会、2005